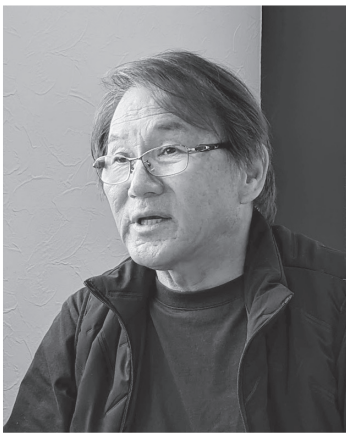


# 人との触れ合いが観光、移住に すさみのファンを増やす取り組みを進める

(一社) すさみ町観光協会会長 中嶋 淳 さん



中嶋淳会長

1月23日、西牟婁ブロック交流会で、一般社団法人すさみ町観光協会中嶋淳会長から、まちづくりや観光、移住の話を観光案内施設の「フロント110」で聞きました。交流会には竹内さん、廣畑さん、柳田さん、大前が参加しました。

## すさみ町の人口が 社会増になった

中嶋：すさみ町の高齢者の方が、将来への希望を無くして「早く迎えに来てほしい」などと言わないまちにしていきたいとの思いで、9年前に大工から町会議員になり、去年の選挙で3期目をやらせてもらっています。20年続けてくれた観光協会会長から「会長を引き受けてくれないか」と言われ、6年前から会長をしています。

すさみ町は高齢化率47・5%で住民の半分が高齢者。漁師さんは500人程いたのが、

今は80人。その内70歳以上が46人と、漁業も衰退一方で、農林漁の町で、担い手がなくなってきました。春はカツオ漁で賑わいましたが、黒潮の蛇行や、外国船が巻き網で稚魚まで取って行くとかで、カツオが採れなくなり、漁では食べていけないと、漁師さんが子どもに漁業を継がせない状態です。

漁師さんが食べていけるような事をやろうと、未利用魚の利用とか付加価値を付ける取り組みを、水産卸売商社さんとか、東京のレストランなどとすすめています。それで、沖サワラとかシイラなどが評判になり、人気が出てきています。

もう一つは、町内の空き家対策と移住です。人口が自然に減少するのがすさみ町の現状で、空き家が500軒程あります。まちづくりや観光振興を、クオリティの高い移住者の若者を呼び込んで、地元の人と共働して新たな取り組みを始めています。ここは警察署跡を町が観光案内所に改

修し、観光協会が管理し「フロント110」と名付け、2年半前にオープンしました。ここをすさみ町全体のフロントにして、住民と他所から来た人の、交流の場所にしよう。ここへ来たなら、すさみ町のことが全て分かる場所にしようとしています。今、多くの人が集まって、地元の漁師さんや農家さんとの交流が始まり、すさみの人に惚れ込んで移住が増えていきます。

すさみ町は毎年110人程人口が減少していました。自然減は50、60人社会減も同じほど。しかし2年前から社会増になっています。昨年の社会増減は、出て行く人は102人、入って来る人は118人と人口減少は47人まで下がりました。人口問題研究所の人口予想で、2045年には1600人、現在の半分以下になると言われていますが、それもこれからの取り組みで変わってくると思っています。

近隣自治体から、すさみ町すごいなって言われています。武蔵野美術大学が来て、地域との交流が始まり、去年、すさみ芸術祭を開いたり、いろんな人がものづくりをしてくれて、月1回のペースでイベントが開かれています。町長は、コロナの補助金の

## 目次

人との触れ合いが観光、移住に すさみのファンを増やす取り組みを進める (一社)すさみ町観光協会会長 中嶋 淳さん……	1
結婚するなら有田市で 『マリー・ユー』有田市二人の未来応援パッケージ……	5
「会計年度任用職員」制度スタートから4年、処遇改善の状況② 和歌山自治労連 書記次長 杉谷 尚……	8

# わかやま住民と自治

発行／和歌山県地域・自治体問題研究所  
和歌山市太田2丁目14-9 太田ビル203号  
TEL・FAX 073-488-3127  
jichiken@crux.ocn.ne.jp 2024年4月号



観光案内所の「フロント110」

半分は町民に、半分は地域・観光復興に活用していくと、ここ「フロント110」のりノベーション、サップカヤック、いこいの村の近くでキャンプ場CAMPKnotを開いたりしました。観光協会も人が来た時に、おもてなしが出来る体験事業づくりに、この2年余り取り組んできました。

以前は閉鎖的な町のイメージがあったのですが、町の魅力が増えて「移住したいので空き家はないですか」という問い合わせが増えていきます。僕は見老津に住んでいます

が、一番移住が増えている地域です。以前町に「空き家は物件ある」と聞けば「5軒だ

が使えるのは1軒だけ」。空き家を借れるようにしようと僕が色々交渉したら17軒申し出てくれて、今は全部移住者が入っています。最初は変な人を連れてくるなどという感じでしたが、僕は「これから移住した若い人にお世話になる時が来る」と地域のの人に言ってきました。4人家族が移住して、移住後もう1人生まれ、近所のおばちゃん、おじちゃんに「おはよう」と挨拶をされる。とにかく子どもの声が聞こえる。「あ、いいなあ」この子が来たので、私らも元気をもらっています。

ここ「フロント110」は1人が100回訪れるようなすさみを目指しています。観光で1回来るのではなく、すさみの町が好きになり、人に惚れて、何度も行きたいと思えるようなまちづくり。東京に住んでいても、すさみに返って来て。「おかえり」と言

って迎えてくれる。第2の故郷、第2の家族のような感じ。それで、地元の人が元気をもらい、聞いたことがない話を聞いたり、東京のお土産をもらったり、今までありえなかったことがすさみ町で起こっています。

それが、コロナ禍の3年間に出来てきました。町長も、

移住で若い人達が来ることによって、町が元気になってきたと言います。駅前にかレー屋さんやゲストハウス、バーや串カツ屋さんが出来て、みんなで町を盛り上げていこうという雰囲気になって来ています。人口が減ってきて、すさみ町のファンが増えて、すさみに来て、お金を落としてくれる。経済を回していくものづくりができてきたという感じですよ。

### 移住の推進と

### 子育て支援策

柳田：みなべも人口が減って移住者を求めているのですが、空き家はあるのに仏壇や荷物が置いていて、なかなか貸してもらえない。

中嶋：僕は、空き家の持ち主にして「年に何回、仏壇にお参りするの」と聞きます。1回か2回だったら「自宅に仏壇を移して毎日お参りすれば先祖も喜ぶ」。和尚さんも「嫁ぎ

先の仏壇と並べてもかまいません。空き家より、その方が喜んでもらえる」と言われる。また、台風時の家屋破損の心配もなくなる。お盆に墓参りに来れば、空き家の家賃収入でホテルに泊まったつらと言

ます。荷物があれば「荷物の撤去に8万円出ます。それで全て業者が撤去してくれます。荷物に必要・不要の〇×付けるだけです」と言えば、それなら貸すわとなったります。柳田：荷物の撤去費用は町がもってくれるの。

中嶋：町もあるし県の補助もありません。県はりノベーション補助金が、上限80万円。それが使えない人、町民でも空き家を使いたいという人や移住の人に対して、町としても

上限50万円の補助金をつけてくれました。あと、新築に100万円の補助金が1年前に始まって、空き家の解消に使ってらっしゃいます。トイレ改修で合併浄化槽を入れられない所に、簡易水洗の補助金を提案したら、町は二分の一の補助金をつけてくれました。若い子育て世帯には、医療費も18歳まで無料で、高校では通学費を無料にしています。小中学校の給食費も無料。そういう手厚い、若い人向けの補助もやっています。

### すさみの観光は 地域との交流から

すさみの観光は、訪れた人が、すさみの人の豊かな姿を

見てもらって、そこで交流が始まり、すさみにほれ込んで何度も訪れる。これがすさみの観光だと考えています。すさみの住民と交流すれば、住民はいろんな話を聞けて、力をもらえる。今、漁師さんのエビ網体験をしていて、その中で、お母さんに漁師鍋をふるまってもらい、小遣いが落ちる仕組みにしています。そのお母さんが県外から来た人と話をして「めちゃくちゃ力をもらった」と言います。漁師さんのおっちゃんは「まだ84で人生これからや、まだまだ漁師やっていく」という力強い言葉が返ってきます。先輩方がすさみに生きて良かったと言えりような、それがすさみ町の観光のあり方だと思えます。

柳田：漁業体験は、エビ網だけですか。

中嶋：ウツボ漁とか刺し網。2月にウツボワーケーションや刺し網ワーケーションをやります。みなべ町で梅ワーケーションをしていて、島田由香さんと計画しています。去年みなべの梅ワーケーションを見に行って始めました。漁師さんにも評判が良くて、この2月に再度やります。

大前：ワーケーションって何を



西牟婁交流会の様子

中嶋：参加者にウツボ漁を体験してもらおう。ウツボを開いたり、干したり、漁師さんの仕事を手伝ってもらいます。働きながら、非日常体験でリフレッシュするという体験観光です。

竹本：さばくのは難しいですよ。漁師さんがついてくれるのですが。

柳田：農業はどうですか。

中嶋：昨年12月2日に保育所跡地をリメイクした交流施設「イコラ」で、お店のシェフを呼んできてすさみ町の特産品、レタスを主に使ったディナーとバイキング料理を楽しむ催しをしました。

### 広域での取り組みと、 これからの観光協会の 取り組み

去年、観光協会の会長をみなべ町から那智勝浦町まで訪ねて、「8市町村で交流をしながら連携しましょう」と声を掛けました。今まではそんな事しなかったからやりましようとなつて、去年すさみ町で2回、みなべ町、上富田町で交流しました。この1月には田辺の秋津野ガルテンでやります。交流会を重ねながら、こういう連携にするか考えています。

大前：すさみ町観光協会是一般社団法人で、財政的な基盤も含めた体制になっているのでしょうか。

中嶋：昨年1人職員を雇用して進みだしました。あともう一人雇用しようと考えています。今から力を入れたいのは教育旅行。教育旅行が一番地域の経済を回していけると考

えています。

大前：以前御坊での観光シンポジウムで、教育旅行の受け入れをしている紀州ゆめ倶楽部の方に話をしてもらいました。

中嶋：この近辺では日置川の南紀州交流公社が受け入れていますが、高齢で辞める人も多いようで、すさみでも民泊の受け入れをしています。これからは広域で協力して、体験メニューなどを充実したいと思っています。

柳田：正直な話、すさみ町観光協会と聞いてもピンとこなかった。取り組みを聞いて、びつくりしています。

中嶋：白浜町観光協会の会長からも、今までの観光ではなく、すさみのような取り組みを進めたいと言ってもらっています。僕は、白浜町の椿とか日置川で、すさみと同じような、人との触れ合いを広げる新しい観光を目指していきたいと言っています。

柳田：例えば龍神などでも、移住者は来ていますが、なかなか一緒に地域づくりをしようとはなっていない。

中嶋：最初に取り組んだときは、すさみに移住したらどんなメリットがあると聞く男性が多かった。それを聞いて、これは無理やなと思いました。

それで僕は呼び込むしかないと思います。Facebookで9年間すさみを発信し続けていたら、面白いと思う3人の女性がいて、その人たちが来てくれました。コーディネーターやカレー屋、宿をしてくれて、その後、そんな女性が増えるのはどんな町かと来る人が増えて、移住したいとか、地元の人との交流が始まって、一緒にお酒を飲む場が出来て、ひとりひとり役割分担が出来てきた。企画する人、実現に汗をかく人、人を集めてくれる人とか、そういった役割分担ができて、自分も楽になりました。

竹本：秋のサイクリングイベントには大勢来てくれました。

中嶋：すさみでは色んなイベントをしていて、イノブータン王国国際、カジキマグロ釣りのビルフィッシュトーナメント、花火大会、サイクリングのRIDELON SUSAMI、漁船を使ったスポーツフィッシング大会、カラオケイベントなど毎月のようにあります。

柳田：自転車はどこを走るの。

中嶋：古座川町までの往復で120kmコースです。海岸沿いで行って山側からすさみ町に戻ります。参加者は600名、700名位。参加希望は

多いけど、それ位で止めています。僕の地区ではおじいちゃんおばあちゃんが1日中旗を持って応援します。そのおもてなしがいい。コース途中のエイドステーションで当地の名物、サンマ寿司とか古座川ではアユの塩焼きがあつて、参加者はお腹いっぱいになると言います。「また来るよね」と年に何回も来てくれる人もいます。

あと、IT関連などの会社が空き家とか空き施設に入ってもらつて、そこで仕事ができような。連携ができればいいと考えています。

柳田：そういった取り組みは、会長の発案で、みんなで相談して取り組む組織づくりができています。

中嶋：今、出来て来ています。僕がこういうのはどうかと言え、観光協会で応えてくれます。

色んなイベントも、役場や町民が一体になって盛り上げます。

あと、いろんなイベントの時にみんなで海岸清掃をします。すさみの海、山、自然はみんなで守っていく取り組みを始めています。

大前：すさみで「紀勢線を考える懇談会」を行ったと聞いたのですが。



すさみ海水浴場と稲積(いなづみ)島

**中嶋**：国鉄が開通していない時は、すさみは船の中継所だったので、旅館街が多かった。周参見駅は無人駅ですが、今も特急が止まります。周参見駅前の活性化を図ろうと、移住者の視察にあわせて駅前通りで「繋がる市」というイベントをやりました。その時に来た人が僕の地域に移住しています。

すさみ町には、周参見駅、

見老津駅、江住駅と3つの無人駅があります。観光協会で見老津駅を貸してくれとJRに要望して3年かかって許可が出て、そのあと町の建物の周参見駅は町に貸してもらい、今JRに、江住駅も貸してほしいと要望しています。3つの無人駅をすさみ観光の案内所にして、店を出すとか、賑わいの拠点にしていこうと取り組んでいる最中です。

**大前**：すさみ町は変わってきましたか。

**中嶋**：この2、3年でめっちゃやくちや変わってきました。移住者など新しい人の力を借りて、人を呼び込むセンスある企画を立てられるようになってきました。僕らならポスターに大きな字で観光協会と書くようなセンスのないものですが、それが変わってきました。僕も変わってきたと思います。新しい人いろいろなことを教えてもらって、今日のように話したりする力をつけてもらえました、これからまだまだ勉強することがあると思っています。

役場の職員も若くなって、町も副業制度を作ってくれたので、観光協会でもそれを利用して使っています。休日に職員を雇ってイベントをします。職員は色々なイベントを運営し

て、経験を積んだプロ集団になっていきます。

**廣畑**：ITオフィスを白浜はいくつも作ってきているのですが、先ほども言っていた住民との繋がりがないと、来ている事業所の方が言っている。今はITやデジタルの分野での繋がりが、例えば小中学校でのIT関連の授業などしか考えてない。話を聞く中で、だいぶ違うなと思ったのです。

**中嶋**：白浜に来ているIT企業の方とイベントの会食で話したのですが、「僕らは町民と一緒にやりたい」と、今はオフィスで仕事をして東京と白浜を行き来するだけ。地域の人々と交流するようなワークショップを、ITの若い人たちは求めていて、そういう場をもっと作りたいというので、すさみの人と酒でも飲んで話しましょうと言っています。

**廣畑**：南紀州交流公社、私は参加していません。原発廃棄物の問題で、関西電力の方も南紀州交流公社に係わっていたというのもあった。民泊の受け入れなど、いい活動だと思のですが、白浜も5年前に核廃棄物持ち込み反対の条例を作り受け入れない状態ですが、そういう経過があったのです。

**中嶋**：観光も地域の良さとか自然とか、そういうものを求めるなら、白浜でも椿とか日置川だと思えます。地域の人のふれあうものづくりをしないと、日置川は衰退していく一方。地域の人も閉鎖的になっていく。南紀州さんの教育旅行は2泊3日で、来た子ども達が別れに涙流して「また来るよ」とか、民泊で来た子が、先生になって再び来てくれたり、そういった物語は始まっています。僕も住民の代表として、自ら一緒にいるやうにしていきたい、紀南を盛り上げて行こうという思いです。

**廣畑**：白浜温泉やアドベンチャーや熊野古道など観光の目玉として大きな声あげているけど、言われるように、地域の人が生きてきて良かった、これからも頑張ろうと思う地域づくりが大事だと改めて思いました。

**中嶋**：先日ここで環境省のイベントがあつて、その時に片付けを一緒にしようと言ったら止められて、安全面とかがあるのだからやりますと。僕らが今取り組んでいるのは、いろんな用意や片付け、全部観光客も一緒にやろうと。自分らがおもてなしと考えてやれば疲れて、やりたくない

なつてくると思います。来た人は、お客さんでなく、みんながすさみのファンになつてもらおう仕組みづくりと考えて一緒にやりだしたら、逆にお客さんが面白いと変わつてきています。

**柳田**：イベントなどをSNSで投稿したり。

**中嶋**：あと動画のクリエイターが配信したりです。その人もUターンした方で、移住したクリエイターの方に学んでいます。こつちで撮影した動画を編集してくれたりしています。

**柳田**：そういうスタッフをちゃんと掴んでいるのが強みですな。

**大前**：今日は貴重な時間をありがとうございました。今回すさみ町の観光振興をまちづくりと合わせて、地域住民を主体に考えて進めていこうという取り組みを聞かせていただきました。

**中嶋**：また、すさみに移住した方とかの話を聞きたいのだから、その機会も持ちますのでぜひお越しください。

**大前**：そんな機会も考えたいと思います。本日はありがとうございました。

# 結婚するなら有田市で

## 『マリー・ユー』有田市二人の未来応援パッケージ



まちづくり係山原係長

令和3年度から子育て支援策等を人生のシーンごとに提供し、「結婚するなら有田市で」というキャッチフレーズの「マリー・ユー」制度について、経営企画課まちづくり係山原正義係長にお聞きしました。

山原：昨年の9月に、有田市長のインタビュー記事を書いていただきました。非常によくまとめてくださっていたので、私たちにとっても市長の考え方を知れて、よかったです。

大前：望月市長は有田市の未来を熱く語り、市政運営に全力で取り組んでいるようでしたが、今年の市長選挙を機に退任されるそうですね。まだお若いのに残念ですね。  
山原：9月に市長選挙ですが、私にとって初めてのことなので、市長が代わるイメージがまだつきません。

### 子育ての大切さを 社会全体で発信しよう

大前：「マリー・ユー」という制度を作った経過。また名称もユニークですが、どうつけられたのですか。

山原：令和2年度の予算編成で、各所管の予算や施策を検討する市長査定の時に、移住や結婚、子育て支援を一体的にパッケージ化して打ち出したらという事になりました。記事でも書いていただいているのですが、「人口減少だから子育て支援でお金を渡します」というのではなく、もっと根本的に、妊娠出産や子育ての大切さというところを社会全体で応援していこうという思いで、支援策をパッケージにしました。私たちの経営企画課で音頭をとって、各所管課で「どんな支援があ

る」を集めて「何が足りない」を補うために考えて、会議を何回か重ねてパッケージ化していったという経過です。名称は、当時担当していた女性職員が出した案です。現在は、まさにマリー・ユーの最中、育休中です。

大前：リーフレットの移住定住策の空き家・空き地の利用あっせんで、不動産業者の仲介費用補助や、新築で市内の事業所を活用すれば補助金が増額される制度。また、奨学金の返還補助金というのはユニークな制度だと思つたのですが。

山原：大学進学で他府県に出て帰って来ても、特に若い時の奨学金返還は負担が大きい。そこを市としても応援してカバーするという制度です。他自治体でも実施しているところもあります。有田市独自でブラッシュアップしているのは、市内の企業に勤務してくれたら、4年目以降より手厚くなるとしています。また、令和5年度からは小中学校の修学旅行費助成制度を新たに作りました。これも令和6年度から「マリー・ユ

### 人口増には至らないが、 定住や移住のきっかけ

大前：制度の見直しや評価についてはどうしていますか。  
山原：政策の課題を検討するサマリーレビューや予算編成のタイミンングに会議を開いて考えています。

制度の見直しや評価は各所管課で行っています。私たちのところでは、全体の評価として人口増減が一つの目安だと注目しています。

20代の転出が多かったのが抑制されているということもあったのですが、それがタイミンング的に、コロナ禍の状況で、動きが抑制されたのか、分かりにくいところでした。一方で30代の転出が多い。これが家を建てるタイミンングで土地のある所に出ていく傾向だと考えたのですが、でも翌年度になるとそこは増えなかつたりもして、年によって代わってきています。しかし、

」制度に組み込んでいく予定で



Marry You のリーフレット表紙

結婚するなら有田市で

[マリィ・ユー]  
**Marry You**

これから  
結婚する人も

子育てや進学、  
移住をお考えの方も

知れば得する  
新しい有田市の支援制度

今のところ、目に見える効果というの、実現できていないのが現状です。一定のスパンで取り組んでいく施策でもあるので、すぐに数字で現れないとも考えています。

元々住まわれている方の定住も大事だと思っています。結婚する時に、近隣の市町と比較し、有田市にはこういう施策があるので住み続けたいと、アンケートで回答してくれています。実際にこの制度があるから移住してくれたという

方も、少なからずいます。結婚された夫婦のどちらかが、市外から来てくれるというのもあり、夫婦共々市外からというパターンもあります。

大前：有田市の人口増減というのはどうなっているのでしょうか。  
山原：令和4年度の数字で、社会動態では、マイナス約200人、自然動態ではマイナス約300人、合わせてマイナス500人ほどです。ちな

みに有田市の人口は、2万6千人程です。特に住民の年齢の割合に注目しないといけないと考えています。高齢化が進んで、いかに若い世代を少しでも増やせるかということを考えています。

大前：制度を評価するアンケートなどを取っているのですか。  
山原：この制度を申請頂いた方にアンケートを取っています。それを、次のブラッシュアップに必要な資料としてい

ます。あと、市の事業計画作成時など市民全体を対象にしたアンケート時に調査項目として入れてもらったりしています。

### ふるさと応援寄付金を 制度の財源に

大前：この制度にかかる財源はどうなっていますか。

山原：ふるさと応援寄付金（以下「ふるさと納税」）を財

源にしています。昨年は約49億円のふるさと納税をしていただきました。有田市は和歌山県では1番納税額が多くて、全国でも28位になっています。ネット通販で人気の高い水産加工会社の力も大きいと思います。また、有田市はみかんをブランドインングしていく原産地圃場管理制度で認定したみかんを、ふるさと納税で全国に発信しようという取り組みを進めています。それにかんの6次化産業化を実現しているみかん生産会社の製品を含め、ジュースやゼリーといった高品質なみかん加工品を

扱っています。こうしたみかん関係で全体の3割位、水産加工品はもう少し割合があると思います。

大前：ふるさと納税は、自治体に半分ぐらい残ると言われているようですが、制度全体の予算規模はどのくらいなのでしょう。

山原：「マリィ・ユー」全体で約1億5000万円位財源として充てています。

### これからの 検討課題について

大前：来年度、制度の見直しや新しい制度を追加するとかあるのでしょうか。

山原：先ほどの修学旅行費助成制度を「マリィ・ユー」にきちんと位置づけていく。それと、ヒアリングをしていく中で、課題になっているのが就職、仕事の面だと考えています。それに対する施策が講じられていないかと思っています。居住するとなると仕事意識される。就職する場所が市内に無いのかという観点と、

## Marry you (マリー・ユー) 制度の概要

### 移住定住

空き家・空き地バンク事業	空き家の購入・改修を支援	購入費用の1/2 改修費用の2/3 義務教育の子がいる世帯もしくは世帯主が40歳未満の世帯はそれぞれ	50万円 (上限) 80万円 (上限) 100万円 (上限)
	空地への新築費用支援	新築費用の1/30 市内事業所を活用した場合の1/20 義務教育の子どもがいる世帯もしくは世帯主が40歳未満の世帯はそれぞれ	50万円 (上限) 70万円 (上限) 50万円上乗せ
	空き家の家財処分費用の10/10		10万円 (上限)
	宅地建物取引業者(協会加入)の仲介手数料の1/2		5万円 (上限)
就業・起業する方の奨学金返済を毎年支援など(29歳の年度まで)	奨学金返済額の1/2 市内事業所への就業・起業で4年目から10/10	12万円 (上限) 20万円 (上限)	

### 結婚

新婚世帯の住居費用を支援 新築・家賃・引越代など	夫婦とも40歳未満 30歳未満の夫婦は	30万円 (上限) 60万円 (上限)
お世話になった方への有田市の産品を贈呈	夫婦とも40歳未満	1万円まで

### 妊娠出産

スマイルチケット(妊娠届け・産後のママを応援)	妊娠時 2万円 出産時 3万円のチケット配布
出産祝い金	1人目 10万円 2人目 30万円 3人目から 50万円

### 子育て

高校卒業までの子どもの医療費無料	
病児保育無料	
入学祝い金	小・中学校入学時 10万円
修学旅行参加費用補助 ※R5年度補正で実施	小学校 3万円(上限)、中学校 7万円(上限)

市内に住んで通える場所に職場があるのかという、その2つの視点から、施策として何

大前：エネオス精油工場閉鎖

もありませんし、南海トラフ地震の関係もあって、海岸沿いに今以上に住むというのも難しい

山原：有田市には一体的な土地がないというのも課題では

あるのですが、空き家もたくさん出て来ていて、それをどう有効活用していくかも着目しないといけない。不動産屋さんに話を聞くと、ハザードマップ上で浸水地域でなくても、海岸沿いは津波を意識されるようで、なかなか難しいですね。

大前：そうですね。海岸線はどこも同じような状況ですね。「マリー・ユー」人生の節目、就職、結婚、出産などに支援があるというのは、住民にとっても分かり易い制度ですよ。

山原：他府県からも視察にいられたりしますが、近隣の自治体も類似した制度をパッケージにしたものを始められています。似たような制度はどことも持たれているのですが、一体的にPRしているというのが、私たちが先駆的にやったことだと思っております。他も追っかけて来るので。

大前：良いものは真似をしますから。本日はお忙しい中ありがとうございました。

# 「会計年度任用職員」制度 スタートから4年、処遇改善の状況②

和歌山自治労連 書記次長 杉谷 尚



杉谷 尚さん

自治体等の非正規職員の処遇改善を目的に導入された「会計年度任用職員」制度ですが、現実には生活改善につながる状況にはなっていないようです。今回は賃金水準について投稿していただきました。

## 会計年度任用職員の 現状と課題

小泉政権下で「小さな政

府」「規制緩和」「官から民へ」集中改革プラン(2005年～2009年)で定員削減目標策定が求められ、自治体の正規職員が削減され続け、臨時・非常勤など非正規職員が増加してきました。

和歌山県内30自治体でも正規職員が06年～22年までに1600人余りが削減され、非正規職員は1200人余り増えています。

非正規職員の仲間は、不安定雇用、正規職員と賃金労働条件の格差のある中で、公務の一翼を担い、全国の仲間と

ともに、処遇改善を求める運動をすすめてきました。昨年は、その要求がおおきく前進しましたが、様々な課題が残されています。

### ①会計年度任用職員の 初任給と昇給の上限

和歌山県の9割の自治体で、行政職給料表の最低基準(1-1)を適用しており、今年度の人事院勧告による賃金改定で、時給換算で996円となりましたが、一日7・7・5時間の短時間勤務では、年収200万円前後となります。自治体によって、勤務時間、一時金の違いがあり、年収試算では、199万円～235万円でした。さらに正規職員と同様の4月遡及を実施した自治体と、4月遡及を実施しなかった自治体では、13万円余りの差がありました。

また、昇給には上限があり、1-1(996円)からスタートして1-5(1024円)或いは1-25(1205円)に設定され、3～5年働

くと賃金が上がらない状況となります。

経験を積みスキルを高めても、賃金が上がらなければ、正当な評価がなされたとは言えません。

### ②一時金の課題

正規職員の一時的金は期末手当(2・45月)勤続手当(2・05月)で年間4・5月ですが、4年前の会計年度任用職員制度導入時は勤務時間が1分短くても期末手当のみでした。全国的な運動で、短時間勤務の会計年度任用職員にも、正規職員と同様に勤続手当が支給されるようになってきました。しかし、正規職員とは違う月数を設定する自治体もいくつか見受けられます。また、勤続手当の支給については、国は人事評価に基づく成績率の設定をもとめており、公平・公正な人事管理が、課題となっています。

### ③退職手当の課題

現行制度では、1分でも短い短時間勤務の会計年度任用職員には、退職手当は支給さ

れません。不安定雇用、低賃金の会計年度任用職員にこそ、次の雇用につながるためにも退職手当の支給が求められます。合理的根拠のない短時間勤務の設定は、許されません。また、短時間であっても退職手当を支給することが、雇用不安をなくし、安心して公務に専念できる制度の一つになります。

### ④休暇制度

年次有給休暇、病気休暇の有給化、介護・看護休暇など、正規職員との均等待遇について、次号で紹介します。

— つづく —

